

第19回 体の動きを高める運動部会記録

1 参加者：河野・古川・畠中・岡田・関川・藤原・坪根・山本・小木曾・藤井・鈴木

2 実証授業の指導案について

河野：先日、講師の美越先生からご指導いただいたことを踏まえて、指導案いくつか変更したので共通理解をはかっていく。

言葉の変更・・・働き掛け→働きかけ

学びのロードマップ例・・・いつの時間に書いたのか分かるように第〇時や日付を入れたほうがわかりやすい。ただ順序性と捉えられないようにしたい。

河野：畠中先生の事前授業の写真でもいい。

藤井：①現状の説明の『共有』は何を共有するのか分かるように、共有したい問いや学習課題を入れるといい。

ア教師の働きかけ・・・序盤・中盤・終盤などで区切らないようにした。

岡田：「子供の問い」の終盤に『体の動きを高めるために』があるのはどうか？という経緯で（）にした。

【子供の問い】変更点

イラストの5番目「どうすればいいのかな？」→『（高めるために）どうすればいいのかな？』

イラストの6番目「どんな工夫しようかな？」→『（もっと高めるために）どんな工夫をしようかな？』

イラストの7番目『（体の動きを）高めるために何を高めようかな？』→『何の体力を高めようかな？』

イラストの9番目『（体の動きを高めるために）自分に合った動きは何？』→『次からは、どうやって高めていこうかな？』

○学習過程の工夫

ロードマップの共有事項を入れた。順序性はないが

畠中：意図的な順番はあるのでは。意識して今もやっている。一斉一律ではと言われるかもしれないが、部会として一斉一律の捉えは、学習過程がそうならないようにという理解。

河野：例えばポイントを発見の絶対にやらなきゃいけないのか。そうではない。

3 授業者（畠中）相談

言葉掛けについて・・・これまで「やってみてどう？」と言葉掛けをしてきたが、授業をやってみて「君に学習課題って何？」と問わないといけないと感じていた。

ポイントの価値づけについて・・・今は付箋で貯まっている状態。そういうのが好きな子もいるが書いている内容は正直ねらっているものとは違う。

→山本：シールで貼るのも書く時間が省けていいのでは？

藤原：感覚的なものもある。今回は学習カードか付箋どちらでもいい。ポイント発見がメインではない。

畠中：最後に自分（教師）が書くでいいかな。

岡田：今回の学習過程では、ポイントを確立するのは時間的に難しい。子供のものを教師が紹介するでいいと思う。

○児童とのポイントの共通理解・・・「体をどう動かすかだよ」。（畠中談）

○児童との工夫の共通理解・・・「条件を変えてもできる」。（畠中談）

○悩みはポイントを付箋で書かせる必要あるか。振り返りカードに書かせてもいいのか・・・集約の仕方が悩み。

○試したのが、タブレットを譜面台に置いた。バンブーの場で運動アプリで行い方をループで流した。運動によっては効果的だと感じた。

→事前を見てご意見いただく。おそらくまだ使う子はいない。いても後半か。ICTの活用については来年の課題か。

岡田：第3時見たとき。丁寧な導入でも考えていない子もいた。意識付けという意味では「学習課題は何？」と投げかけるのはありだと感じた。

河野：よい働きかけだと思う。継続で。

畠中：柔らかさの扱いが難しい、高まりが実感しづらい。

岡田：やる前に自分の現状を確認してからやってみてはどうか。

畠中：授業して気づいたことだが、児童はロードマップのみながら振り返りをする。見通しという意味では有効だと感じる。また、個人へのアプローチがまだよくできていない。今回は関わり合いがあまりみえない。

河野：ロードマップ上になくても関わりの部分は共有してもよい。

藤井：子供はどの程度色々な運動を経験しているのか。

畠中：第1時はなるべく色々やってねと促しているが・・・

藤井：共有するためには経験があるとないでは違う。2、3回やってみたほうがいい。一人一人の経験を広げるのも必要だと感じた。

畠中：運動への関心は、事前のアンケートの結果通りになった。自分のクラスはエアロビがない。持続はすぐに実感は感じられないからかも。隣のクラスはやっていた。

藤井：自分はポイント価値付は多くの子に聞いて、落とし込むやり方。

畠中：合意形成をはかるのが難しいと自分も感じている。考えていく。

4 協議会の流れ（岡田）

- ・競技の時にグループいれるのか前半後半にわけなのか。
- ・参観者に話したいことをフォームでアンケートを取り、それをもとに話せるようにする方向。

・講師・来賓紹介は高草木先生

5 部長より

岡田先生が撮ってくれた畠中先生の動画に対して部員がコメントしているのが嬉しく感じる。

参加できない人もラインやズームで研究に関わってほしい。

美越先生は一般の方に分かりやすいように進めてくれているので自分たちも分かりやすい提案ができるよう頑張りましょう。